

## 人間文化研究機構国文学研究資料館

### 令和6（2024）年度第2回運営会議 議事要旨

- 【日時】 令和6（2024）年10月22日（火） 15：30～17：10  
【場所】 国文学研究資料館 第1会議室  
【出席者】 安藤、入口（議長）、大山、岡崎、木越、久富木原、倉員（副議長）、齋藤、佐藤、鈴木、田淵、遠山、西村、ヒューイ、藤實、八木、山地、山本和明、山本聡美の各委員  
【欠席者】 神作、川平、張の各委員  
【陪席者】 渡部館長、秋庭管理部長、笠原総務課長、姫野財務課長、その他関係職員

議事に先立ち、渡部館長から挨拶があった。

笠原総務課長から、会議の定足数について、運営会議委員22名のうち、欠席者は3名であること、今回は、審議事項に「国文学研究資料館長候補者の選考」の議題があるため、国文学研究資料館館長候補者の選考に関する申合せ第6条第1項により、定足数は全員の4分の3である17名以上であり、現在19名出席しているため定足数を満たしている旨報告があった。

#### 議 事

- 【前回（令和6（2024）年6月26日）運営会議議事要旨の確認】  
原案のとおり了承された。

#### 【審議事項】

- 1 国文学研究資料館長候補者の選考について （資料1）  
入口議長から、館長候補者の選考について、資料1－4に基づき、前回会議以降の経過報告として、7月3日に各委員へ候補者推薦依頼を送付して7月29日に締め切り、その後、9月20日に館長候補者選考委員会を開催し、推薦書類を確認して、被推薦者に関して資格を有するか等の協議を行った結果、適任者名簿を作成した旨説明があった。  
その後、議長の指示により、適任者名簿に記載のある渡部館長に退出してもらい、国文学研究資料館長候補者の選考に関する申合せに基づき、投票を行い、開票立会人に安藤委員及び久富木原委員を指名して開票を行った。  
開票の結果、渡部泰明氏（現国文学研究資料館長）を館長候補者に決定し、議長が本人の内諾を得たため、人間文化研究機構長へ推薦することになった。  
なお、入口議長から、今回の選考結果について、手続き終了後、人間文化研究機構から正式に公表される11月下旬から12月上旬まで公にしないよう依頼があった。  
また、回収資料として配布された推薦書類について、山本和明委員から、推薦から応諾へ順序を明確に示すため、次回から推薦書にも日付記載をするべきではないかとの意見があり、入口議長から検討するとの回答があった。

## 2 研究教育職員の人事について

(資料2)

### (1) 准教授【日本古典文学(散文)】の採用について

岡崎委員から、資料2-1及び回収資料に基づき、令和7(2025)年4月1日付の日本古典文学(散文)を専門とする准教授1名の採用について、候補者の経歴及び所見等の説明があった後、可否投票の結果、採用が了承された。

### (2) 教授昇任について

岡崎委員から、回収資料に基づき、令和7(2025)年4月1日付の現研究部准教授の教授昇任について、候補者の経歴及び所見等の説明があった後、可否投票の結果、昇任が了承された。

### (3) テニユア付与及び准教授昇任について

岡崎委員から、資料2-2及び回収資料に基づき、令和7(2025)年4月1日付の現研究部助教のテニユア付与及び准教授昇任について、候補者の経歴及び所見等の説明があった。可否投票の結果、テニユア付与及び准教授昇任が了承された。

なお、本件について、以下のような質疑応答があった。

- ① 鈴木委員から、国文学研究資料館テニユアトラック実施要項第2条「テニユアトラックの期間は、5年を原則とし、3年目に中間評価を、5年目に最終審査をそれぞれ行うものとする。」について、今回の審議結果次第では2年目でのテニユア付与となりうるが、これは問題ないかとの質問があった。

岡崎委員から、同要項同条に「ただし、当該期間中であっても、優秀な評価を得て適格であると人事委員会が認めた場合には、テニユア付与を館長に上申することができる。」との記載があり、5年はあくまで上限で、1、2年でも十分な功績があると当館人事委員会で判断したため、テニユア付与を上申した旨説明があった。

- ② 鈴木委員から、期間中のテニユア付与について、前例はあるかとの質問があった。

入口議長から、テニユアトラック期間2年目でテニユア付与を行うことを検討していた例があるとの説明があった。

## 【報告事項】

### 1 特任研究員の人事について

(資料3)

入口議長から、令和7(2025)年4月1日付で、X線による古典籍の科学的解析(マテリアル分析)を担当する特任助教1名を採用する旨の報告があった。

### 2 令和7年度概算要求について

(資料4)

姫野財務課長から、令和7年度概算要求の結果及び状況について報告があった。

### 3 その他

#### (1) 令和6年度催し物について

(資料5)

入口議長から報告があった。

【当館へのご意見等】

鈴木委員から、資料の保管スペースが不足していることについて、地方公共団体の例を含め、今一度、所蔵資料の取捨選択ないし新陳代謝を行い、国全体のアーカイブズとして何ができるかを考える時期に入るのではないかとの意見があった。

このことに関して、藤實委員から、アーカイブズ学の観点において資料は現地保存が原則であること、また、単に資料保管先を移すという話ではなく、アーキビスト（専門職）の問題も併せて解決していく必要があり、アーカイブズカレッジは人的基盤整備に寄与していることの補足説明があった。

最後に、入口議長から、今年度の運営会議の日程について、以下の説明があった。

第3回目 令和7（2025）年 2月21日（金）10時00分からオンラインで開催

以上